

## Om P. Sharma先生追悼記

京都大学名誉教授  
公益財団法人京都健康管理研究会 理事長 泉 孝英



<http://www-hsc.usc.edu/~osharma/> より

世界のサルコイドーシス学の泰斗とも呼ぶべき存在であった日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会名誉会員シャルマ（Om Prakash Sharma）先生は、昨年（2012）8月、ロスアンゼルス近郊、アルハンブラの自宅で前立腺癌の脳転移のため急逝された。ここで、シャルマ先生の御経歴を紹介させていただくとともに、先生の功績、特に、わが国におけるサルコイドーシス研究への貢献、卒後教育を中心とした医学教育への貢献を記させていただくことにしたい。

私はシャルマ先生と同年（1936）の生まれであり、1975年10月、ニューヨークで開催された第7回国際サルコイドーシス会議（会長：L. E. シルツバック教授、1906～1980）における出会い以来37年に及ぶお付き合い、また、ニューヨークで音楽修業中の次女の父親代わりを10年以上にわたり務めていただいた事情もあり、いささかの私的感情を含めての追悼記とさせていただきたい。

シャルマ先生は、中世に建設された巨大な要塞で知られるインド中部の街グワリオールで医学教育・実地修練

を受け、医師免許取得の後、1960年ロンドンの熱帯病・衛生学院で学ばれている。植民地の医学生が卒業後、宗主国での研修を受けるという優秀な学生のコースをたどったことである。英領インドの独立は1947年、先生の英国留学は、独立後、わずか13年後のことである。しかし、先生は、研修後、母国には帰らず、1962年から4年間、米国のノーウォーク病院、アルバート・アインシュタイン大学病院にて臨床研修を受け、米国の「呼吸器科専門医」資格取得という大きな選択肢を選ばれている。

米国での研修後、1966年から1969年まで、先生はロンドンの王立北部病院（Royal Northern Hospital）で研究活動に従事された。この病院は、1856年キングズ・クロスに開設された慈善病院が1888年ロンドン北部、ホロウェイに移転、Northern Hospitalと称し、1921年Royal Northern Hospitalの名称に変更された歴史を有しているロンドンの名門病院であった。しかし、現在では、NHS病院の再編成方針のため1992年に閉鎖されている。

この病院には、L. E. シルツバック先生とともに「サルコイドーシス学生みの親」とも言うべきD. G. ジェームス

故シャルマ, オム・プラカシュ (Om Prakash Sharma) 先生御略歴

1936年7月4日生	
2012年8月19日逝	
1959年	インド・グワリオール医科大学卒
1959～60年	グワリオール総合病院にて実地修練
1961年	英国・ロンドン熱帯病・衛生学院卒
1962～63年	米国・ノーフォーク病院にて臨床研修（内科）
1963～65年	アルバート・アインシュタイン大学病院にて臨床研修（胸部内科）
1965～66年	アルバート・アインシュタイン大学病院奨学生（心臓・肺医学部門）
1966～69年	英国・王立北部病院（ロンドン）研究員
1969～75年	米国・南カリフォルニア大学ケック医科大学助教
1975～83年	准教授
1983～現在	教授
1988～89年	京都大学客員教授（胸部疾患研究所）

先生（1922～2012）によって1953年サルコイドーシス外来が開設されていた。シャルマ先生にとって、この病院でのジェームス先生との出会いはサルコイドーシス学者としての先生の人生を決定づけることになった。この時代、先生はジェームス先生と共著で、サルコイドーシスの臨床面を中心に13の論文を発表されている。しかし、1969年の時点で、先生の言によれば、ジェームス先生の「英国で地位を獲得することの困難さ」の助言を受け入れ、米国の南カリフォルニア大学ケック医科大学に移られ、そこで、このロスアンゼルスで生涯を全うされることになった。

シャルマ先生のサルコイドーシス学領域における業績は、「サルコイドーシスとは病原・病因は不明の全身性肉芽腫性疾患（国際サルコイドーシス会議、ワシントン、DC、1960）」と定義される本症の「多彩な臨床像・多彩な臨床経過の多様性」を多数の症例収集を通じて明示されたことである。このことは、先生の数多いモノグラフに示されている。先生の主なる出版物としては<sup>\*</sup>、Sarcoidosis: Clinical Management (1984), Key Facts in Pulmonary Disease (1984), Hypersensitivity Pneumonitis: A Clinical Approach (1989), Clinical Atlas of Interstitial Lung Disease (共編: 2006), Atlas of Sarcoidosis: Pathogenesis, Diagnosis and Clinical Features (共編: 2005), Interstitial Lung Disease (2012), などを挙げることができる。また、先生は恩師ジェームス先生の夫人、肝臓病学の泰斗であったSheila Sherlock教授（1918～2001）の伝記「Prof: the Life of Sheila Sherlock "The Liver Queen"」を2007年に刊行されている。これらの著書・編書を拜見して感じられることは、先生のきわめて広汎な交友関係・人間関係である。先生のいわば東洋人的ともいえる気配りがうかがえることである。私の知るかぎり、先生は「困った」表情を示されることはあっても、

「不機嫌・不愉快」の表情を示されることはなかった。

1993年、シャルマ先生は第3回WASOG会議をロスアンゼルス郊外、風光明媚のパサデナのThe Ritz-Carlton Huntington Hotelで開催された。開会式で、ニューヨーク留学中の次女にピアノ演奏の機会を与えていただいた。感謝するところである。当然のことながら、シャルマ先生はシルツバック先生、ジェームス先生の流れのなかで、1999年から2005年まで、WASOG理事長を務められた。

シャルマ先生の活躍は米国だけではない。わが国のサルコイドーシス学の発展に大きく寄与された。1975年のニューヨークでのサルコイドーシス国際会議以来、1978年のカルディフ会議、1981年のパリ会議を通じて、細田裕、三上理一郎、山本正彦、岩井和郎、立花暉夫など、私を含めて多くの日本人知己を得られたシャルマ先生は1983年に初めて来日され、以来の来日回数は20数回以上に及んでいる。多くは、日本サルコイドーシス学会参加のためである。

1987年のミラノ会議で、次回（1991年）、京都での開催が決定された後、私は国際会議運営の良き助言者を得るために、シャルマ先生に京都に来ていただくことにした。先生は、1988年10月から1989年3月に、京都大学招聘外国人学者（客員教授）として京都に滞在された。1991年の第12回サルコイドーシス会議／第1回WASOG会議の企画、演者の選定など、会議の運営のすべてについて、シャルマ先生の助言をいただいたことは、おおきな感謝ごとであった。

この会議において、私は世界のサルコイドーシス・関連疾患の研究の総括とわが国における研究成果の世界への発信を二つの目標とした。特に、この会議において、シャルマ先生は山本正彦、細田裕先生とともに、1960年のワシントン会議での「サルコイドーシスの概念」の再検討作業に挑まれて、1991年版「サルコイドーシスの

## 所属学会・学会活動

米国アレルギー・免疫学会  
 米国胸部医会  
 米国医師会  
 米国臨床研究学会  
 米国オスラー協会  
 米国胸部学会  
 インド胸部学会  
 日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会（名誉会員）  
 日本オスラー協会（名誉会員）  
 ニューヨーク医学会  
 ロンドン・オスラークラブ  
 王立医学協会（英国）  
 英連邦胸部学会  
 ロサンゼルス・トルドー協会  
 WASOG（世界サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会，理事長：1999～2005年）

概念」を学会最終日に報告していただいた。この会議で、私はマウント・シナイ病院におけるシルツバック先生の後継者であるA. V. ティアステイン先生とともに“Population Differences in the Clinical Features and Prognosis of Sarcoidosis through the World”と題したシンポジウムを企画し、第2回会議（1960年）に検討されたこの課題の変貌についての総括を行うことができた。

シャルマ先生には、1988年から89年までの京都滞在中、サルコイドーシスに関する先生の見聞を聴かせていただいただけでなく、見事に整理された臨床へのアプローチ法を医局員に教育していただくことができた。そして、先生は全国各地、特に、当時「大リーガー医養成」を目指しての卒後教育活動を展開していた舞鶴市民病院（松村理司副院長）を中心に、わが国における研修医教育に貢献された。そして、先生が舞鶴を度々、訪問されるにはもうひとつの理由があった。舞鶴在住のお師匠さんに尺八を学ぶためであった。事実、尺八の腕前は相当なものに上達された。私共の診療所でも、月例研修会で「米国の医療」と題した講義をしていただいたことがある。

病を得られたシャルマ先生に「同年の我々は太平洋を越えて頑張ろう」との書信を差し上げ、また、私の編集している『ポケット医学英和辞典（医学書院、2002）』の改訂作業を共同して行おうと、改訂用ゲラを先生に発送した矢先の急逝であった。残念なことであった。しかし、先生は、今も天国で今まで以上に気遣いをしながら活躍中であろうことは想像に難くないことである。

あらためて、シャルマ先生の御冥福を祈りたい。

2013年7月

## ※参考

Sharma先生の著作を御覧になりたい方のために、現在入手できるものを掲載します。

- 1) Om P. Sharma. Sarcoidosis: Clinical Management. Butterworth-Heinemann. 1984, 200pp. (hardcover, 絶版/米国書籍通販の参考価格は約6,500円.)
- 2) Om P. Sharma. Key Facts in Pulmonary Disease. Churchill Livingstone. 1984, 624pp. (paperback, 絶版/米国書籍通販の参考価格は約5,000円.)
- 3) Om P. Sharma. Hypersensitivity Pneumonitis: A Clinical Approach / Progress in Respiratory Research, Vol. 23, Karger. 1989, 186pp. (hardcover, CHF 174.00.)  
(2012年11月にJaypee Brothers Medical Publishersよりペーパーバックとして発行されている.)
- 4) Tatjana Peros-Golubicic, Om P. Sharma. Clinical Atlas of Interstitial Lung Disease. Springer-Verlag. 2006. 208pp. (hardcover / eBook, 208.24 €.)
- 5) Violeta Mihailovic-Vucinic, Om P. Sharma. Atlas of Sarcoidosis: Pathogenesis, Diagnosis, and Clinical Features. Springer-Verlag. 2005. 160pp. (hardcover / softcover / eBook, 184.44 €.)
- 6) Om P. Sharma. Interstitial Lung Disease / Clinical Focus Series. Jaypee Brothers Medical Publishers. 2012. 498pp. (paperback, 出版国がインドのため米国書籍通販での参考価格6,000円.)
- 7) Om P. Sharma. Prof: The Life of Sheila Sherlock "The Liver Queen". Royal College of Physicians of London. 2007, 228pp. (hardcover, 米国書籍通販での参考価格4,000円.)

(注：中古書籍を米国書籍通販で購入する場合、在庫状況による価格差、為替レートの変動などにより価格が変更される場合があります。)